

# 草刈り

染谷 秀雄

家の裏に比較的大きなマンションが建っている。かつては家の周りには大きな地主の柿畑になっていて、立派な次郎柿を何本も栽培していた。仁平農園と言われるくらいのもので、時折、稔るとお裾分けして貰った。いつだったか忘れたがその次郎柿の木を父親が一本戴き丹精込めて育てた。この辺りの土壌は昔から関東ローム層のなかなかいい黒土だったためか、すくすくと育ち、春の頃には芽吹きが眩しく秋には大きな柿が獲れた。その後、家を何度か建て替えを繰り返す中で大事にしていた柿の木も伐らざるを得なくなった。裏の農家の先代夫婦も亡くなり、代替わりすると時代とともに柿畑もつぎつぎと伐採され宅地に切り分けられていった。固定資産税の相続税の問題もあったことだろう。そのうち遂に我が家の裏には三階建ての比較的低い横長のマンションが建つようになった。独身者向けの部屋のように入居者は若い独身者ばかりで物干しには生活感のあるものはあまり乾されなかった。今年になってからか、マンションに住む明かりが見えないところが多くなったと思っていたところ、どうもマンション経営を手放すことになったように入居者は一人二人と去り、雑草が繁りだした。去年はやはり雑草が繁茂して兄が自分の家に届くところは刈っていたが足許も覚束なくなってきた。踏み台などから落ちても大変で、まして猛暑の中をやることは危険となりだんだんと手に負えなくなり、マンションを管理しているところを当り、ようやく連絡が付いた。しかしながら返事ばかりがよくてなかなか取りかかってくれないため、業を煮やして再度強力に申し出て何とか日にちも確認し二日間で草刈りをするにこぎ着けた。自分でやればすぐ手を入れられるが他人の土地ではそれも叶わない。早く生活感の出るマンションの状態にして貰いたいものである。ちなみに我が家の南側にも二階建てだけの独身者向けのマンションが建ってしまった。都内ではそれも仕方ないことかもしれない。